



柏戸の真実

愛唱歌は三橋美智也(下)

「歌は自分が歌うより、人のを聞くのが好き」と言っていた柏戸だが、一方で歌自慢の力士は多い。元大関・増位山(71)は65歳で相撲協会を定年後、自分の父が興し、横綱北の湖が育った三保ヶ関部屋を閉じ、おなじみの持ち歌「そんな夕子に惚れました」などムード歌謡の歌手として活動している。NHK総合テレビ「火曜夜「うたコン」」に出演するなど、今や完全にプロとして仕事をしている。

相撲協会のナンバー2、事業部長の尾車親方(元大関琴風)は現役時代「まわり道」を吹き込んで、こちらはオリコンで最高34位だが、なかにし礼作詞・三木

が一つの呼び物。各部屋の歌自慢の若い衆を募って、土俵に上げて歌わせている。力士は宴席も多いだけに、場持ちが良い歌手は大きなメリットがある。

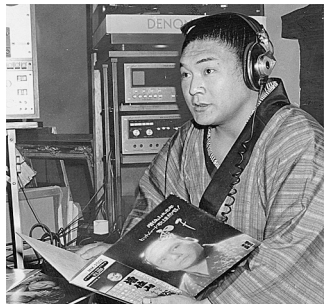
高校三年生も歌った

さて柏戸は三橋美智也好きで「古城」が唯一の十八番だったはずだが、庄内町に住む実妹・愛子は「舟木一夫の高校三年生を一期期よく歌っていた」と思い出している。関取昇進後は次第に若い衆に譲る「相撲甚句」だが、機会があれば今も進んで出番を待つほど。コロナ禍で今年の相撲巡業は取りやめられたが、日常63年の「高校三年生」

が戻れば、また美声を聞かせようだ。



新進気鋭時代の柏戸。酒田市の夏巡業で若秩父(左)とすいかの品定め



は大ヒットし、今もカラオケ曲として熟年世代に人気だが、自らは中途退学した高校生活に思いをはせていたようだ。

白鵬は松山千春歌う

増位山は歌上手で知られた引退して鏡山親方になった後もよく歌ったが、昭和34年作品というのも意味があったのではないかと。大相撲・白鵬時代の到来と言われたが、36年秋の横綱昇進後は山あり谷ありの日々だった。優勝回数が大鵬32回に比して5回にとどまったのはケガや糖尿病発

敬称略(富樫 嘉美)

症など、思うようにいかなることに触れた。ところで現役高校生たちは、どんな思いで演奏しているのか？

体験入門のため、昭和29年、鶴岡南高定時制1年秋に上京したが、学校側はしばらく、いつ戻ってもいいように休学扱いにしてくれた。結局「力士をやります」となったが、同校の修学旅行や村の合併で旧山添中から櫛引中に名前が代わった中学時代の同級生・後輩たちが上京した場合も、努めて会って旧交を温めた。歌詞にある「ほくら離れ離れになろうとも、クラス仲間はいつまでも」の心境だったのだろうか。

アニメ中身知らない

〇：前回ひみつのアッコちゃんの「すきすきソング」が「アッコちゃん」の略称で高校野球応援歌になって

古城は自身の青春歌「古城」に戻れば柏戸は

毎週火曜日付に掲載